

平成 28 年度 船形コロニー改築等設計公募型プロポーザル審査講評

【第 2 段階審査の経過】

第 1 段階審査を通過した 5 社によるプレゼンテーション（ヒアリング）の後、審査を行った。まず、各社の技術提案書の表現等が実施要領に沿ったものかどうかの確認を行った。いずれも要領に抵触するものではないことを確認し審査を進めることを決めた。

各委員による投票に入る前に、各社の技術提案書の内容についてあらためて順に確認した後に投票に移った。投票は記名とし、あらかじめ設定された評価項目ごとに 5 段階の評価点数を記入、全員が記入後、事務局で回収、各項目の配点に応じた配分と集計を行った。第 1 段階での評価点（満点 30 点）はそのまま持ち越し、第 2 段階（技術提案書・ヒアリング）の評価点（満点 70 点）とあわせて 100 点満点での総計点をまとめた。また、参考資料として各委員による事務所別の評価点も示された。

その結果、D 社が 89.2 点、B 社が 83.7 点、A 社が 80.9 点、E 社が 71.0 点、C 社が 66.6 点となった。委員別では、D 社に最高得点を付けた委員が 3 名、B 社に最高点を付けた委員が 2 名となり、上位 2 社の評価が他の 3 社と比較して高かったことから、D 社と B 社を議論の対象として残すこととした。B 社に最高得点を付けた 2 名についても D 社を 2 位の評価としていた。

あらためて 2 社の案について各委員から評価の視点とポイントを挙げながら、議論を行った。議論の結果、第 1 段階評価、第 2 段階評価とも D 社が B 社を上回る点数となっており、結果としても 5 点以上の差をつけての最高得点であることから、当初審査結果の評価点にもとづいて選定することの妥当性を確認し、全員一致で D 社を設計候補者として、また B 社を次点候補者として選定することとした。

今回、2 段階評価（プレゼンテーション・ヒアリング）に臨んだ各社の提案は、いずれも、これまでの検討の経緯や報告書の内容に真摯に向き合い、利用者のことを第一に考え、これからの船形コロニーのあり方に対して大きな夢と希望をつなぐ、質の高い提案だった。難解なプログラムでありながら、それぞれが丁寧に、また意欲的な提案をしてくださったことに対して判定委員一同、心から敬意を表し、また感謝申し上げたい。

【選定結果及び講評】

設計候補者：株式会社 佐藤総合計画（D 社）

取組体制や業務の進め方、各課題に対する提案において、総合的な観点から最も優れた案と評価された。

各建物（棟）を木造で計画し、各ユニットが連なり統一感のある風景を創り出すことをイメージし、地域・地元の住民との連携や交流を意識した計画提案である。事務・管理棟

をコロニーの玄関に位置づけ、施設全体を見渡すことができる場所に設置、活動・給食棟を計画敷地の中心に配置して、各居住棟からのアプローチに配慮した配置計画が評価された。地域との交流の場ともなる「ふながた広場」を計画敷地の中央まで引き込み、地域に開き、地域とつながる施設づくりを目指した点も評価された。4つのユニットを一つのまとまりとして計画し、利用者の暮らしや居場所づくりに意識しながらも、運営上も効率的な支援が可能な計画とした。各棟をつなぐ屋外空間や各棟間をつなぐ動線の確保、歩車の分離や利用者特性に配慮した安全・安心の施設計画の視点も当たり前ではあるが、その当たり前のことに丁寧に向き合っているという思いも評価された。

「まだまだ分からないことも多い。だからこそ、何日でも施設に通い、泊まり込み、利用者のごこと、実際の支援のごことを十分に理解した上で、よりよいものをつくっていききたい」という力強く、意欲的に取り組む姿勢も評価された。以上から、本事業の設計業務を委ねるに最もふさわしい設計者として選定した。

さいごに、施設利用者（障がい者、職員、家族等）との丁寧な対話を通して計画を練り上げていただきたいということと、本計画に適切な長寿命化のための方策や環境・設備計画のあり方を、今後の計画の中で具体的に、丁寧に詰めていただきたいという委員会としての希望を添えて最優秀選定の評とする。

次点：株式会社 関・空間設計（B社）

利用者、職員、家族や地域住民の視点で施設全体、敷地全体をとらえたバランスの良い提案と評価された。特に木造の「家」のスケールで各ユニットを構成し、それらが集まって「集落」のような風景を創り出すイメージや、入居者特性にあわせた特色ある居住棟の計画、ユニット空間構成、丁寧な工事計画などは高く評価された。議論になったのは活動棟の配置と居住棟からの距離、利用者動線として設けられた並木通りを中心とする屋外空間の計画である。特に活動棟と居住棟 B 棟との距離、並木通りで分断されてしまう A 棟と他棟との関係性などが課題としてあげられた。いっぽうで居住棟エリアには落ち着いた生活環境を保障し、手前側の活動棟や管理棟部分で地域からの利用者・来訪者を迎え入れる計画は、考え方によっては同提案の利点になるものでもあり、提案自体は高く評価された。

最終的には D 社案との相対的な比較の結果、次点となった。

平成 29 年 2 月 17 日

平成 28 年度 船形コロニー改築等設計
公募型プロポーザル判定委員会

会長 石井 敏